

2016年2月9日

各 位

会社名 株式会社 キャンパス
代表者名 代表取締役社長 河邊 拓己
(コード番号:4575 東証マザーズ)
問合せ先 取締役最高財務責任者兼管理部長
加登住 眞(電話 055-954-3666)

東京大学との共同研究契約締結のお知らせ

当社はこのたび、国立大学法人東京大学医学部附属病院との間で、当社が創出し開発中の抗癌剤候補化合物CBP501の膵臓癌発症モデルマウスによる薬効試験について共同研究契約を締結いたしましたので、お知らせいたします。

【研究目的】 CBP501単独投与および他の抗癌剤との併用投与による膵臓癌への薬効を、膵臓癌発症モデルマウスを用いて確認する。

当社が開発中の抗癌剤候補物質CBP501は、癌細胞特異的にプラチナ系抗癌剤の作用を増強することに加え、最近になって、癌微小環境に作用することが判明^{※1}しました。

このことから、従来は難治性癌で最新の免疫チェックポイント抗体も無効とされている膵臓癌でも、CBP501の癌微小環境への作用との相加もしくは相乗効果によって、CBP501単独もしくは他の抗癌剤との併用投与によって薬効が発揮されることが期待されます。

本共同研究では、東京大学医学部附属病院伊地知秀明講師が作製したヒト膵臓癌に近い膵臓癌発症モデルマウス^{※2}を用い、CBP501単独およびその他の抗癌剤(免疫系抗癌剤を含む)との併用による薬効を確認します。薬効が見られた場合には、組織染色などの手法を用いて、当該薬効が発揮されるメカニズムを詳細に解析します。

本共同研究の期間は、2016年3月1日から2017年3月31日までです。

なお、本件による当期業績への影響はありません。

以上

※1・・・ 2015年10月27日付当社プレスリリース「[CBP501新知見に関する学会発表について](#)」参照

※2・・・ 癌の動物実験では一般に、ヌードマウスやSCIDマウスにヒト癌細胞を移植したヒト癌発症モデルマウスを用いますが、これらはヒト癌細胞を植え付け増殖させるために免疫系が不全なマウスです。そのため、免疫系抗癌剤の動物実験には使用できません。
本共同研究において東京大学医学部附属病院伊地知秀明講師から導入する膵臓癌発症モデルマウスは、ヒト膵臓癌に近い膵臓癌をマウスに発症させた病態モデル動物であり、免疫不全がないことから、今回の研究目的に最も適したモデル動物です。